

ファイザー社製ワクチンが接種可能になりました

6月から、金曜日 モデルナ社、土曜日 ファイザー社のワクチンにて追加接種(3回目)を実施いたします。ワクチンごとに接種できる年齢や1日の接種人数が異なります。ご予約の際は間違いないようご注意ください。なお、当院では小児接種(5～11歳)は行っておりません。

ご予約はインターネットまたは電話でお申込みください。くわしい予約方法は下記QRコード、もしくはURLからご確認ください。



http://www.kameda.com/ja/clinic/consult/covid19_vaccine/index.html



	金曜日	土曜日
接種対応時間	14:00～ (1日120名)	14:00～ (1日132名)
使用するワクチン	武田/モデルナ社ワクチン	ファイザー社ワクチン
対象年齢	18歳以上	12歳以上

雨の日の安全対策にご協力ください

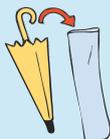
雨で床面等が濡れると滑りやすくなる場合があります。梅雨時の転倒事故を防ぐため、下記の対策にご協力をお願いします。



1 入館時に足ふきマットをご利用ください



2 傘は傘袋に入れてください



3 慌てず ゆっくり歩いてください



特に杖や松葉杖をご利用中の方は、先端のゴムがすべることがあります。お気をつけください。

防災訓練実施のお知らせ

いざという時の心構えと行動を確認するため、6月18日(土)午後から、職員による2022年度春季防災訓練を実施いたします。

今回は院内で火災が発生したケースを想定し、通報・消火・避難までの総合訓練に加えて、消火器や消火栓を用いた初期消火訓練も行う予定です。

訓練中は、非常放送設備を使用した放送訓練も行います。サイレンや非常放送が流れることがありますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。

《G棟 稼働開始》

ARTセンターを皮切りに、リハビリテーションセンター(入院リハビリ)、透析センターが既存棟から新棟「G棟」へ移転し、6月より本格稼働をはじめました。



施設移転にあたり、通院中の患者さまには大変ご不便をおかけいたしました。新しい施設でもこれまで同様、患者さまに安心して受診いただける環境づくりに努めます。

bayim「MEDICAL UPDATES」

FMラジオ局ベイエフエムの午後のワイド番組『it!! (イット)』では、毎週火曜日の午後3時から、当院のスタッフが出演する「MEDICAL UP DATES」のコーナーが好評放送中です。6月は感染症科部長の細川直登医師が「with コロナの感染予防策について」をテーマにお話いたします。



漢方のチカラ

東洋医学診療科 南澤 潔



寒論(傷寒雜病論)^{しょうかんざびょうろん}』という医学書です。今から1800年ほど前(日本は弥生時代)に中国で(あちらは後漢、三国史の時代、ちょうど赤壁の戦いの頃です)成立したとされている書物です。悪性の伝染病の流行で親族の多くを失った偉い役人が、その当時各地に伝わっていた様々な薬方を選びすぐって書物にしたとされています。

漢方薬は殆どの場合何種類か、場合によっては数十種類の薬草や鉱物などを、一定の分量比で調合して作ります。その生薬の配合のレシピと、その煎じ方や内服方法、養生の仕方、またどのような場合にそれを用いるかなど、細かく規定されています。

一方それまでの中国伝統医学では重要な意味を持っていた陰陽五行論に基づく理論的な病態論がほぼ記載されていません。ただある漢方薬が適応となる状態(これを漢方的診断「証」と呼びます)^{しょう}とその処方^{しょう}の説明のみの羅列で、理屈が殆どないんですね。

実はこれ、現代医学の世界で一般的なEBM(科学的根拠に基づいた医療)とほぼ同じです。

多くの方には意外でしょうが、現代の薬もその作用機序が実際は詳しく分かっていなかったり、分かっているようでいて臨床試験をやってみたら全く予想外の結果が出たりすることもそれほど珍しいことではありません。そういう時にまず目の前の事実「エビデンス」を重視するのがEBMです。実は理屈は後付けです。

現代のこれほどまでに進んだ科学の力を持ってしても、数十兆もの細胞が有機的に連携し、更に共生細菌がその何倍もいて消化や吸収にも深く関わっているという、超超…と超がいくつも付くほどの超複雑系である「人体」のメカニズムは、まだまだわからないことだらけです。

さらに漢方薬は、それぞれが非常に多彩な成分を含む生薬をいくつも組み合わせた、これもまた超がつく複雑系薬剤です。よく漢方薬はなぜ効くかわからないから信用ならないと言われるのですが、そもそも多くの薬の作用機序も本当に全てがわかっているかと言うとかなり怪しい。

人間の心身というのはそれほど複雑精緻なものなんです。

第2話 漢方とエビデンス(科学的根拠)

皆様こんにちは。東洋医学診療科の南澤潔と申します。漢方紹介のシリーズ2回目です。

前回は漢方が中国に起源を持つものの、我が国独自の発展を遂げて来たということをお話しました。

さて、では漢方医学とは何でしょう？

多くの方にとって漢方といえば「あの苦くてまずい薬たち」のことでしょうね(「苦」笑)。

それでは、裏山で取ってきたセンブリやドクダミを煎じて飲むのも「漢方」でしょうか??



センブリ ドクダミ

実は、治療に苦い生薬を使うことが「漢方」ではないのです。

似ているようで、薬草を煎じて飲むなどの民間療法と漢方が明確に違うのは、漢方ではそれぞれの薬が適する人(飲むべき人)と適さない人(飲むべきでない人)が明確に、しかも細かく決められていることです。よく「風邪引きには葛根湯」といいますが実は風邪にもいろいろなタイプがあって、葛根湯が適応となるのはその一部に過ぎず、むしろ葛根湯を飲まないほうが良いタイプすらあるのです。

症状、経過、診察所見から患者さまを的確に「診断」し、最も合った治療薬を選んで用いなければ十分な治療効果を上げることは難しい…。これは医学の世界では当然のことなのですが、漢方治療でも正しい診断があって初めて適切な治療が可能になります。つまり漢方は明確な医学体系なんですね。「なんとなく身体に良さそう〜」なんてフワッとした使い方をするものでは、本来はないのです。

さて、日本の漢方医学で聖典のような存在なのが、「傷

医師紹介

やまざき しんたろう
山崎信太郎 医師



- ①担当科目
- ②診療における得意分野
- ③趣味
- ④ひと言

- ①心臓血管外科
- ②心臓血管外科、ステントグラフト治療
- ③テニス
- ④全ては患者さまの満足のために最善の医療を提供します。



Kameda Medical Center

亀田ホームページ <http://www.kameda.com>